航空ファン
KOKU-FAN

ワイドカラー
WIDE COLOUR
グラマン
トムキャット



☆特集☆ 米空母"エンタープライズ"の搭載機
未来の戦闘機のＤＬＣとＤＳＦの効用
米軍極秘情報「日本軍戦闘機の戦術」

'78 AUGUST **8**

BUNRIN-DO JAPAN

$3.30


"ビッグE" の艦載機
米空母エンタープライズ
AIRCRAFT OF "BIG E"



△空母上空を飛行する，A-7E，F-14A，RA-5C，EA-6B，KA-6D，A-6Eの編隊。

△Flying in formation over the ENTERPRISE are A-7E, F-14A, RA-5C, EA-6B, KA-6D and A-6E.

▽フライトデッキ上をカタパルトに向けタキシングする第27攻撃飛行隊（VA-27）所属のA-7EコルセアII。手前の機体はブルーの濃淡による迷彩塗装を施してある。

▽A-7E Corsair of VA-27 taxiing towards catapult. The plane this side is camouflaged in two-tone blue.





▽カタパルト上で発艦準備中のA-7Eと後方で待機中のA-7E。前ページ下と同じ機体。

▽ A-7E on the catapult. One other (same as appeared on the previous page) is waiting for her turn.





エレベーター上のVA-27所属のA-7E（手前）とVA-196所属のA-6Eイントルーダー。A-6Eはパイロットが搭乗し、主翼下には900kg爆弾を搭載している。

A-6E Intruder of VA-196 and A-7E of VA-27. 900kg bombs are under the wing

アングルドデッキの第3カタパルト上で発艦準備中の第1偵察攻撃飛行隊（RVAH-1）所属のRA-5Cビジランテ。

RA-5C Vigilante of RVAH-1 ready to take off







204
103
NK
NK

ロールアウトした
ロックウェル・インターナショナル“ハイマット”

ROCKWELL INTERNATIONAL "HIMAT" ROLLED OUT





写真はこのほど完成した，
NASAが米空軍と共同
研究を進めている1990年
の戦闘機の新技術開発の飛
行テスト用無人誘導機ハイ
マット（HiMAT）の1号機
同機は44/100スケールで
機が作られることになって
おり，この無人機のテス
をもとにスケールアップの
有人機が作られることにな
っている

ロールアウトした ボーイングQSRA
BOWING QSRA ROLLED OUT





[illegible]

A QSRA (Quiet Short Range Aircraft) test plane was rolled out at Boeing Seattle Works, on March 31, 1978. It is under development by the request of NASA.



F-4 Phantoms And F-104 EIKOs (Glory) Participating In "JASDF Firing Contest '78"



53年度航空総隊射撃・戦技競技会に参加した
"ファントム" と "栄光"





406
87-8406



400
77-8400



[illegible] 航空団第[illegible]飛行隊のF-104J。 F-104J, [illegible]



離陸滑走する第83航空隊第207飛行隊のF-104J。 F-104J of [illegible]



(Photo by H.Hamano)

第６航空団第205飛行隊のF-104J。この機体は新塗装のもので，団マークを尾翼に描き，今まで尾翼にあった飛行隊マークは小さく空気取入口側面に描かれている。

[illegible] which had so far been on the tail. [illegible]

A-18原型機

A-18 PROTOTYPE





このページは上面と下面から見た飛行中のA-18原型機。 (Photo by R.P. Morrison)

(Photo by R.P. Morrison) A-18 prototype in flight, top and bottom views.





P-3オライオンのバリエーション

△第30哨戒飛行隊（VP-30）所属のP-3B。

▽1969年8月に行なわれたモフェットフィールド海軍基地のオープンハウスで，滑走路上を低空飛行するVP-48のP-3B。現在この部隊はP-3Cを装備している。

▽P-3B of VP-48 at Moffett Field NAS openhouse, August 1969. This unit is now equipped with P-3C.

MAJOR P-3 ORIONS IN SERVICE









〔上〕主翼下にAGM-12ブルパップ対地ミサイルを装備して飛行するVP-36所属のP-3C。

〔中〕大西洋上のソ連艦船を監視するVP-44所属のP-3A。1969年7月9日の撮影。

〔下〕哨戒飛行中のVP-49所属のP-3A。1965年5月の撮影。

Top: P-3C of VP-30 with AGM-12 Bullpup.

Middle: P-3A of VP-44 during patrol mission, Atlantic Ocean. Two Soviet vessels are seen. Photo taken on July 9, 1969.

Bottom: P-3A of VP-49 during patrol mission, May 1965.





△スペインのロタ基地に駐留している第2艦隊偵察飛行隊(VQ-2)所属のEP-3E.

▷第8海洋開発飛行隊(VXN-8)で磁気観測に使用されているRP-3D.

▽ジャクソンビルにある第4艦隊気象観測飛行隊(VW-4)所属のWP-3A.

△ EP-3E of VQ-2 stationed in Spain.

▷ RP-3D of VXN-8

▽ WP-3A of VW-4, Jacksonville NAS.





ファントム5000号機

THE 5000TH F-4 PHANTOM BUILT



去る5月24日マクダネル・ダグラスのセントルイス工場でF-4ファントムの5,000号機の完成式が行なわれた。ファントムの原型1号機であるF4H-1が初飛行した1958年5月27日からちょうど20年目である。F-4はアメリカ海・空軍，海兵隊をはじめ世界10ヵ国で使用されていて，米海軍・海兵隊向けに1,264機，空軍に2,640機，海外には1,096機が生産された他日本ではライセンス生産も行なわれている。

↑飛行中のファントム5,000号機

↑米空軍のF-4Eと編隊飛行する5,000号機。胴体には使用国の国旗が描かれている

↓セントルイス工場のエプロンに翼を休める5,000号機

The 5000th F-4 Phantom built by McDonnell Douglas was delivered in celemonies held in the St. Louis Works, McDonnell Douglas, on May 24. So far, 1264 Phantoms were delivered to the Navy and Marines, and 2640 to the Air Force. International deliveries total 1096. Japan has built more than 100 Phantoms under licease.

↑ The 5000th Phantom now in flight.

↑ The memorial Phantom, with flags of nations where Phantoms are in use drawe on the fuselage, flys in formation with USAF F-4Es.

↓ The 5000th Phantom at the St. Louis Works' apron.





(Photo by Rolls Royce)

NATO演習“アークティック・エクスプレス”に参加した

英空軍のジャガーとピューマ

JAGUAR AND PUMA IN NATO EXERCISE "ARCTIC EXPRESS"

Photo by Rolls Royce)



これはNATOの7か国カナダ、西ドイツ、イタリア、オランダ、ノルウェー、アメリカ、イギリスが参加してノルウェー北部で行なわれた演習"アークティック・エクスプレス(Arctic Express)"に参加した英空軍のジャガー戦闘機とピューマヘリコプタ

前ページ上は雪の積った基地から離陸する英空軍第41スコードロン所属のジャガーGR.1偵察機。同じく下はノルウェーの基地に並ぶ第41スコードロンのジャガーGR.1。

↑雪の森林地帯を飛行する英空軍第33スコードロンのピューマ

↓滑走路に向けタキシングする英空軍のジャガーGR.1。

Troops from seven NATO member nations exercised the defense of Northern Norway in "Arctic Express", a joint NATO Norwegian field training exercise, in the Troms area. The seven nations providing personnel were Canada, West Germany, Italy, the Netherlands, Norway, the U. S. and Britain.

(Previous page) Jaguar GR.1 from RAF No.41 Sqdn.
(Prev. bottom) Jaguar GR.1s of No.41 Sqdn at a Norwegian base.

Puma helicopter from RAF No.33 Sqdn, flying over the snow-covered forest land.

Jaguar GR.1 of RAF No.41 Sqdn taxing towards the runway.



(Photo by Rolls Royce)

(Photo by Rolls Royce)





フィリピン空軍向けクルーセイダー１号機　FIRST CRUSADER TO PHILIPPINE AF

デビスモンサン基地のエプロンで，フィリピン空軍整備員により最終チェックを受けるF-8クルセイダー戦闘機同機は25機納入されるうちの１号機で，これらの機体はデビスモンサン基地でモスボールされていたものを，オーバーホール，テスト飛行を行なった後引き渡される。また，この１号機はさる５月31日にフィリピンに向かった。

Philippine technicians make a last minute check of a reconditioned F-8 Crusader, the first of 25 which Vought Corporation is refurbishing for the Philippine Air Force. Crusader No.1, shown here, left for the Philippines on May 31.

主翼下面にフランスのマトラ“マジック550”空対空ミサイルを装備したアルファジェット原型２号機。フランス空軍では近くこのアルファジェットを訓練部隊に装備する予定になっている。

Alphajet (Prototype No.2) equipped with "Magic 550" air to air missile under the wing. French AF will soon assign this aircraft to training units.

アルファジェット原型２号機
ALPHAJET PROTOTYPE NO.2





去る5月8日から12日まで、53年度の航空総隊の射撃・戦技競技大会が、小松基地をホームベースにして笠取山および輪島の両分とん基地、G訓練空域、R-141を使用して行なわれた。射撃部門は初めてF-4EJ部隊によって行なわれ、競技の結果優勝は第304飛行隊、以下301、303、302飛行隊の順であった。

The JASDF tactical weapons firing contest, this year, was conducted at a limited area near Komatsu JASDF Base, 8-12 May. The Firing Division was competed for the first time by F-4EJ units. The winner was 304Sq, followed by 301Sq, 303Sq, and 302Sq in this order.

53年度航空総隊射撃・戦技競技会に参加した
“ファントム”と“栄光”

要撃部門は北部、峯岡、笠取、西部、南西の各防衛区域チームにわかれて行なわれ、要撃機にはF-104Jが使用された。優勝は北部チームで、第2位峯岡、第3位南西、第4位西部チームの順であった。



JASDF GUNNERY MEET '78



競技を終え着陸する第7航空団(百里基地)第301飛行隊のF-4EJ。 F-4EJ of 301Sq, 7Wg, from Hyakuri Base.



F-4EJ of 302Sq, 2Wg, from Chitose, Hokkaido.

滑走路に向けタキシングする第2航空団(千歳基地)第302飛行隊のF-4EJ。

小松基地のエプロンに並ぶ地元第6航空団第303飛行隊のF-4EJ。垂直尾翼のマークは5月初めに決まった第6航空団マーク。

F-4EJ of 303Sq, 6Wg, from Komatsu Base, with new Wing marking on the tail.





滑走路上で離陸待機中の第303飛行隊のF-4EJ.

エプロンに勢ぞろいした第302飛行隊のF-4EJ。

F-4EJ of 302Sq, 2Wg, from Chitose, Hokkaido.



The Intercepting Division was contested by the F-104J from North, Mineoka, Kasatori, West and South-West air-defense regions. The F-4 was used as the invading aircraft, in the intercepting contest. The winner was the "North" team, and the Mineoka, South-West, West teams followed in this order.

今回初めて行なわれたF-4EJの射撃部門で優勝した第8航空団(築城基地)第304飛行隊のF-4EJ。



F-4EJ of the winner team in the Firing Division, 304Sq, 8Wg, from Tsuiki, Kyushu.



要撃競技を終えて着陸する第6航空団（小松基地・笠取チーム）第205飛行隊のF-104J。

F-104J of 205Sq, 6Wg (from Komatsu Base, Kasatori Team) in the intercepting contest.



滑走路わきで離陸待機中の第5航空団第202飛行隊（新田原基地・西部チーム）のF-104J。

F-104J of 202Sq, 5Wg (from Nyutabaru Base, West Team)



エプロンに並ぶ第2航空団第203飛行隊（千歳基地・北部チーム）のF-104J。

F-104J of 203Sq, 2Wg (from Chitose Base, North Team).







編隊離陸する第205飛行隊のF-104J。 F 104J from 205Sq, 6Wg, takes off.

タキシング中の第202飛行隊のF-104J。

F 104J of 202Sq taxiing.



エプロンにもどってきた第83航空隊第207飛行隊（那覇基地・南西チーム）のF-104J。 F-104J of 207Sq, 83AGp (from Naha Base, South-West Team) coming back to apron.



着陸する第7航空団第206飛行隊（百里基地・峯岡チーム）のF-104J。 F-104J of 206Sq, 7Wg (from Hyakuri Base, Mineoka Team).



フランス空軍の航空機
FRENCH AIR FORCE, TODAY



飛行中のシュペールミステールB.2。フランス南東部にホームベースのある第5戦闘航空団第1飛行隊(1/5 Vendée(バウンデェイ))で使用していた機体で、現在同飛行隊はミラージュＦ１Ｃを装備している。

Desault Super-Mystère B.2 once in use by 1/5 Vendée. The squadron is presently equippped with Mirage F1.

(本文68ページ参照)



2/5 Ile de France(イル・ド・フランス)で使用していたシュペールミステールB.2。主翼下面に500ℓ増槽とサイドワインダーAAM用ランチャーを装備している。この部隊も現在はミラージュF1Cを装備している。

Super-Mystère B.2, once used by 2/5 Ile de France. This unit also uses Mirage F1C at present.

編隊飛中する1/5 Vendée(バウンデェイ)所属のシュペールミステールB.2。胴体の線は赤で、垂直尾翼の斜めの帯は青である。



[illegible] B.2s from 1/5 Vendée [illegible] fuselage line was red, and the band on the [illegible]



T-33A in use for pilots' advanced training.



パイロットの高等訓練に使用されているT-33A。

飛行学校で使用しているマジステールCM170練習機。
Air Fouga CM 170 Magister flown by a training school.







第７航空団で使用しているジャガーＡ。 Jaguar A of 7th E.C.

1976年に行なわれた消火演習で撮影した第５戦闘航空団所属のミラージュＦ１Ｃ。 Mirage F1C from 5th E.C. Photo taken at a fire exercis…



同じく第５戦闘航空団所属のミラージュＦ１Ｃ。



第5戦闘航空団第2飛行隊で使用していたミラージュIIIC。



Mirage F1C from 5th E.C. Mirage IIIC once flown by 2/5 Ile de France

テスト飛行中のアルファジェット。カゾウにある第8転換教育航空団の第1、2飛行隊は現在ミステール4を使用しているが、近くこのアルファジェットに機種変更が予定されている。



Alphajet in test flight. The Mystère 4 of Cazaux-based 8th Escadre de Transformation will soon be replaced with the Alphajet.



テスト飛行中のミラージュ戦闘機の最新型ミラージュ2000原型1号機。ミラージュ2000は現在フランス空軍が使用しているミラージュIIIおよびミラージュF1戦闘機の後継機として開発されたもので、1975年12月に開発に着手、原型第1号機は去る3月10日にイール飛行場で初飛行した。



Miraga 2000, Prototype No.1, in test flight. At Isle Airport, March 10.

在日米軍基地の オープンハウスを見る

AIRCRAFT PARTICIPATING IN USF BASES' OPENHOUSE



このページと次ページは、5月5日に行なわれた米海兵隊岩国基地の親善デーの主な展示機。上は航空自衛隊から参加したアクロバットチーム"ブルーインパルス"。

JASDF acrobats, "Blue Impuls", feting the "Friendship Day", Iwakuni MS openhouse, May 5.

米海兵第513攻撃飛行隊（VMA-513）所属のAV-8Aハリアー。



AV-8A Harrier of VMA 513, Iwakuni MS.

米海兵第214攻撃飛行隊（VMA-214）所属のA-4Mスカイホーク。



A-4M Skyhawk of VMA-214, Iwakuni MS.

米海兵第251戦闘攻撃飛行隊（VMFA-251）所属のF-4JファントムII。



F-4J Phantom II of VMFA-251, Iwakuni MS.

A-6E Intruder of VMA(AW)-121, Iwakuni MS.



[illegible]（VMA（AW）-121）所属のA-6Eイントルーダー

A-4F Skyhawk of H&MS-12, Iwakuni MS.



[illegible]飛行隊（H&MS-12）所属のTA-4Fスカイホーク

韓国の烏山（オーサン）基地に駐留する，米空軍第51混成運隊（51st COMPW）所属のF-4Eファントム II。



F-4E Phantom II of 51st COMPW, from Osan AFB, Korea [illegible] MS.

海上自衛隊から参加したＰ２Ｖ-7改造の可変特性研究機。一般に公開されたのはこれが初めてである。



JMSDF P-2V7 modified, first appearance to the public, Iwakuni MS.

航空自衛隊第５航空団第２０４飛行隊所属のF-104Ｊ（手前）とF-104ＤＪ。



[illegible]

海上自衛隊から参加した、US-1救難飛行艇。



JMSDF US-1 Rescue Flyingboat, Iwakuni MS.



Various aircraft participated in the Atsugi NS openhouse, May 14. Four OH-6 helicopters from JGSDF exhibited their prowess.

このページは5月14日に行なわれた厚木基地の三軍記念日の展示機。上は陸上自衛隊宇都宮基地から参加したOH-6 4機によるアクロバット飛行。



空母ミッドウェイに搭載されているVA-115所属のA-6E。

A-6E of VA-115 from USS MIDWAY, Atsugi NS.



救難展示飛行をする海上自衛隊厚木救難隊のS-62。

JMSDF S-62 in rescue demonstration, Atsugi NS.



VR-30所属のC-9B。

C-9B of VR-30, Atsugi NS.



VP-50所属のP-3C。

P-3C of VP-50, Atsugi NS.

PHOTO NEWS



上と中は左翼下パイロンにエリコンKCA30㎜機関砲ポッドを装備したA-7コルセアII。対戦車用の火器としてテストしているもので、発射速度は1,350発/分、ガンポッドはA-7の初期型用のMK 4を改造したもの。

A-7 Corsair II, with Oelikon KCA30 gun-pod, in anti tank test firing.



ロッキードがL100-30型民間輸送機をベースに設計したハーキュリーズ旅客機の完成図。



Blueprint of Hercules Civil Air transport, designed on the basis of Lockheed L100-30.

ツポレフ設計局が試作した水陸両用の高速艇で、雪上、水上、湿地などを高速で滑走できる。350HPの航空機用エンジンを装備して最大速度は100km、航続距離は500km。



A-3 Amphibian aerosleigh, designed by the A.N. Tupolev Planning Center, USSR. (TASS)





△米陸軍のＡＨ·1Ｑヒューイコブラ攻撃ヘリコプタから発射される、陸軍のＴＯＷ有線誘導対戦車ミサイル、写真はアリゾナ州ユマの実験場でテスト中のもの。
◁ソ連防空軍記念日に発表された写真で、飛行中の機体はYak-28Ｐ、地上の機体はSu-9と思われる。

△US Army's TOW anti tank missile streaks from an AH 1Q HueyCobra during tests at Yuma Proving Ground, Ariz.

◁Yak 28P in flight, Su 9 on the ground. Soviet Air defense Day.

アントノフAn-28輸送機。乗客は18人で短時間で旅客用から貨物用にすることができる。同機はまた、パラシュートを使っての物資投下や、写真撮影などにも使用できる。

(TASS)



Antonov An-28 short-range light transport capable of carrying 18 passengers.

スナップだより
SNAPSHOTS





△厚木基地に飛来した空母エンタープライズ搭載のVS-38所属のUS-3A(船橋市　鈴木信武)
◁5月22日羽田空港に飛来したイラク航空のB.747-270C(東京都 竹内義久)。

△USS ENTERPISE nested US-3A of VS 38 flew to Atsugi NS. (S. Suzuki, Funabashi)

◁Iranian Airways' B.747-270C. Photo tanken at Haneda Airport, May 22. (Y. Takeuchi, Tokyo)

▷5月15日ネパール国王を乗せて羽田空港に飛来したネパール航空のB.727-100(東京都　古内　淳)。
▽4月下旬横田基地に飛来した米海軍第5混成飛行隊(VC-5)所属のA-4E(東京都　西野　健)。

▷Nepal Airways' B.727-100, Haneda Airport, May 15. The King of Nepal visited Japan by this aircraft. (A. Furuuchi, Tokyo)

▽A-4E of VC-5, late in April, at Yokota Air Base. (K. Nishino, Tokyo)





オリジナル・カラー　第二次大戦機



Spitfire Mark 8 Mk.8s of Australian AF, Pitoe AFB, Morotai Island.

南太平洋モロタイ島のピトエ航空基地で撮影したオーストラリア空軍のスピットファイアMk.8。オーストラリア空軍のスピットファイアの制式記号はA58。Mk.8はA58-300から[illegible]A58-550までの251機を[illegible]。写真左端の機体はMk.8の[illegible](A58-551)である。



南方でろ獲された日本軍用機

ニューギニアでオーストラリア軍にろ獲された零戦52型。国籍記章をかえて，技術航空情報センター（Technical Air Intelligence Center）の文字や記号が書かれたほかはもとのままの完全な状態で，飛行テストを行なったものである。右側に米軍機マークをつけた100式司令部偵察機2型，左側にP-40戦闘機が見える。

Zero, Model 52, captured in New Guinea by the Australian Forces. With the "Technical Air Intelligence Center" marking, it had severe flight tests. On the right hand side is a Ki.46, Model 2 (Dinah), with the USAF marking and on the left the USAF P-40.

↓ Australia. The 59th Sentai, first stationed at Lae, retreated to Hollandia via Wewak in January 1944

JAPANESE WAR-BIBRDS CAPTURED IN SOUTHERN ISLANDS

ニューギニアのホーランジアで米軍に鹵獲された1式戦隼1型。昭和18年6月の豪州攻撃で爆撃の掩護などに活躍した飛行第59戦隊の所属機。同戦隊は昭和19年1月，ラエ，ウエワク方面からホーランジアに後退，同年2月に内地へ帰還しており，置き去りにされた隼の1機であろう。1944年（昭和19年）4月の撮影。

plane must have been abandoned here during the withdrawal. Photo taken in April 1944.

Nakajima Ki-43 Fighter HAYABUSA (Oscar), Model 1, captured at Hollandia, New Guinea. This was one of fighters of HIKO No.59 SENTAI which had participated in the June 1943 attack of



Spitfire Mark F.Mk.8s of No.79 Squadron, Australian AF. Pitae AFB, Morotai Island.



[illegible]ージと同じくモロタイ島のピタエ航空基地で撮影したオーストラリア空軍のスピットファイアMk. 8。1944年～45年ごろの撮影と思われる。胴体の"UP"のコード・レターは1943年6月に編成された第79スコードロンの[illegible]し，同スコードロンは第452，第457につづいて，オーストラリア空軍でスピットファイアを装備した3番目のスコードロン。島伝いの飛び石作戦で，ボルネオまで進撃した。白とブルーの国籍記章，ダークグリーンとオーシャングレイの迷彩。これが当時のオリジナル・カラー。





これもニューギニアのホーランジアに放置された1式戦隼の残骸。飛行第77戦隊の所属機である。同戦隊は昭和19年1月にニューギニア戦線に投入され，ブーツ，ウエワク方面で迎撃戦に参加したが，同年3月末にホーランジアに後退，空襲で機材を失なっている。1944年5月の撮影。

Nakajima Ki.43 Fighter (Oscar), Hollandia. It was once belonged to HIKO No.77 SENTAI which advanced to New Guinea in January 1944. The unit retreated from Wewak to Hollandia in late March, 1944, and lost all of its strength there. Photo taken in May 1944.



⬆ ニューギニアのホーランジアで，米軍の空襲で破壊された陸軍機．左側に100式重爆呑龍の2機分の尾部，つづいて3式戦飛燕，100式司令部偵察機の残骸．手前にうつっているのは，100式重爆の主翼．呑龍の尾翼に描かれているマークは独立第20中隊所属機を示す。

⬆ Japanese Army airplanes destroyed by USF raid. Scattered are remains of the Ki.49 DONRYU (Helen), Ki.61 HIKEN (Tony) and Ki.46 (Dinah). The DONRYU's marking shows that it belonged to Dokuritsu Hiko No.20 Chutai.

⬇ Type 99 Carrier Dive Bomber (Val), victimized by USF raid at an airstrip in the Philippines, fall of 1944.

⬇ 1944年秋にフィリピンで撮影した99艦爆．飛行場のかたわらの木かげの掩體に置かれていたところを空襲されたものであろう



①第7航空団第207飛行隊（百里基地）所属機



JASDF'S LOCKHEED F-104J "EIKŌ"

(2)第2航空団第201飛行隊（千歳基地）所属機

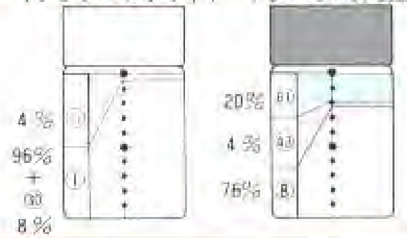


③第2航空団第203飛行隊（千歳基地）所属機



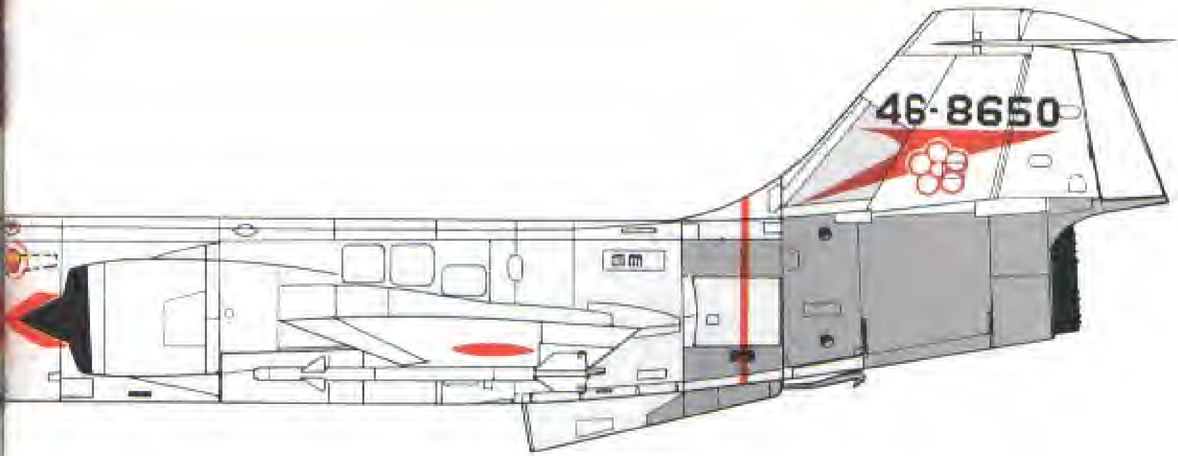
グンゼ産業Mr.カラー 配合ガイド

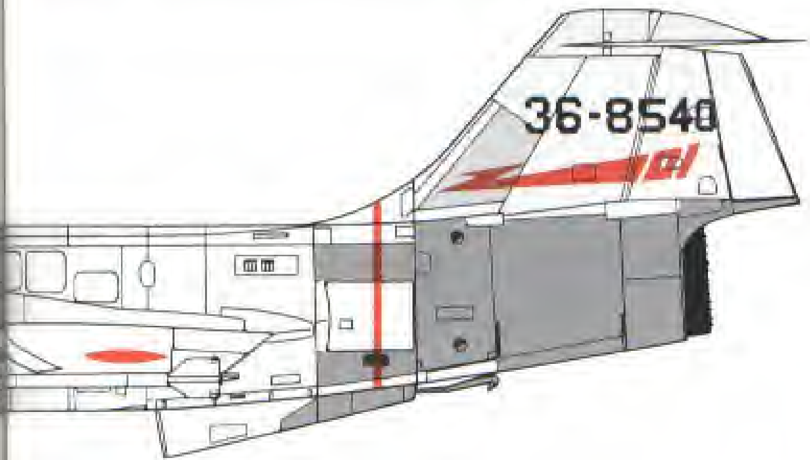


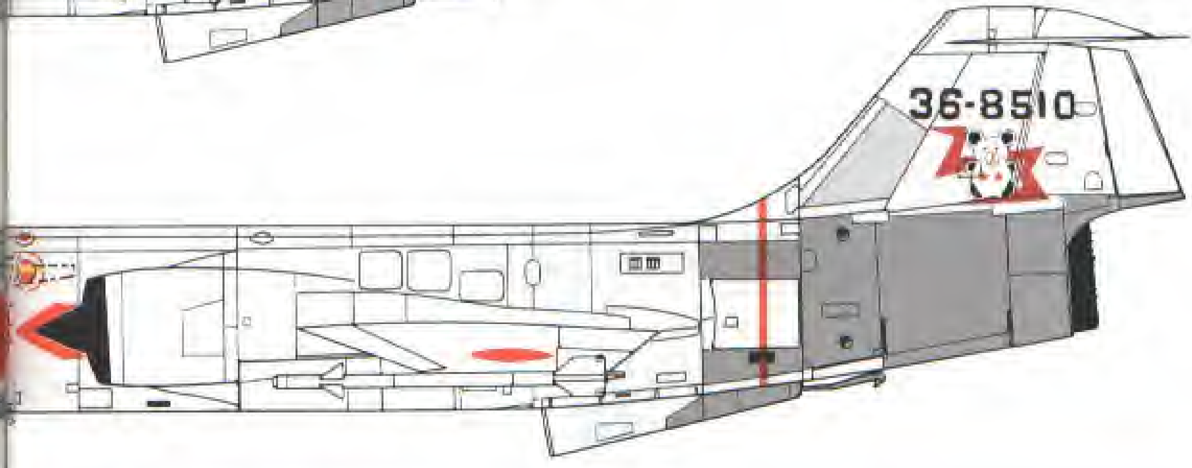


配合ガイドの見かた

グンゼ・カラーのビンをレイアウトした混色パターンは、左のナンバーがグンゼ・カラーナンバーで、中央の目盛りは混合%を示し、ひと目盛りが10%を示しているが、厳密な混合%を示しても、あまり重要とはいえない個々の色感とかモデル塗装上の個性という問題もあり、あくまでも、この混合比は目安とお考え願いたい。








第 2 航空団第 203 飛行隊の F-104J

GUNZE SANGYO

グンゼ産業Mr.カラー

ハイモデリングのための塗装マニュアル



↑ 第2航空団第203飛行隊のF-104DJ。

航空自衛隊F-104J“栄光”の塗装とマーキング

（その2）

図1 航空自衛隊第7航空団第207飛行隊（百里基地）所属機で、マークは第7航空団のマークと有名な水戸の「梅」を組み合わせたもの。バックの「7」が青の場合は第206飛行隊。

図2 航空自衛隊第201飛行隊（千歳基地）所属機。マークは「201」の図案化。機体は銀色、レドームは黒、主翼と水平尾翼は[illegible]（橙色）に全面塗装されている。

図3 航空自衛隊第2航空団第203飛行隊（千歳基地）所属機。第203飛行隊は昭和39年6月25日に発足したF-104J編成の第2番目の実戦部隊で、F-4EJ編成の第302飛行隊と共に北部航空方面隊の主力となっている。マークは北海道を形成する「北」のデザイン、バックの赤い部分マークは「2」と「3」の組合わせとなっている。

☆グンゼMr.カラー☆

飛行機、自動車、船、鉄道、そして戦車に軍服に至る豊富な色がそろっているグンゼ・カラーは昔から定評のあるカラー。それぞれの専用色がそろっているが、飛行機の塗装に、これら飛行機以外のカラーを応用するのも、上手なカラーの使い方で、たとえばインシグニアレッドの代用となりそうな鉄道色の（赤2号）とか、同じ銀色にしても飛行機用とはちょっと異なる自動車とか、鉄道用を適当な部分で塗り分けてみるという手法もある。

なお、飛行機用にはドイツ機色としてRLMグレーとかF-15イーグル用には、エアスペリオリティ・ブルーなどのカラーも新発売中。グンゼ・カラーなら、ほとんど混色の必要はいらないほどに、それぞれ専用色がそろっている。 （イラストと解説・橋本喜久男）



↑ 第7航空団第206飛行隊のF-104J。



↑ 第6航空団第205飛行隊のF-104J。

↓ 第2航空団第201飛行隊のF-104J。





From left to right: Consolidated PBY-5 Catalina, B-25, P-38 and Catalina. Pitae AFB, Morotai Island.

モロタイ島ピタエ航空基地の[illegible]、[illegible]カタリナ、B-25、P-38、PBY-5の[illegible]、コンソリデーテッドPBYカタリナは、これまでもっとも成功した飛行艇のひとつ。大戦中に[illegible]、[illegible]機として連合軍でひろく使われている。

海軍機未発表写真集



14th AF fighters and bombers caught Japanese Ships. Smoke billows from Kwaloon docks and railroad yards. Zeke fighter (center) angrily turnes in to the attack. Between Royal Navy yard (left) and Stonecutter's island, Japanese vessels spout flame. 16 Oct. 1944. (USAF Photo)



〔上〕終戦とともに、三沢海軍航空基地の格納庫内で“武装解除”された海軍機。右から機首に電探のアンテナを付けた１式陸攻24型、零戦52型、１式陸攻の順。いずれも完全な状態で、はずされたプロペラがスピナごとドラムカンに載せられて、機体の前方にきちんと置かれている。昭和20年10月20日の撮影。

〔下〕南方の基地の零戦52型。部隊標識「２」をつけているが、この標識の部隊名は現在のところ不明である。基地はラバウルと思われる。

〔右下〕奈良県の大和海軍航空基地で“武装解除”された陸爆銀河11後期型。プロペラははずされているが、機体は完全な状態である。昭和20年９月15日の撮影。





↑ From right to left are Type 1 Attack-bomber Model 24 (G4M2E), Zero Model 52 (A6M5) and Type 1 Attack-bomber (model unknown). "Disarmed" at Misawa Naval Air Base. Photo taken October 20,1945.
↙ Zero Model 52 (A6M5) at a southern island base, probably Rabaul. It is not known what a unit the "2" insignia represent
↓ Kugisho Bomber "Ginga", Model 11 Later Version (P1Y1), disarmed at Yamato Naval Air Basee, Nara Pref. Photo taken September 15, 1945.



ルフトバッフェの猛禽

ユンカースJu87シュツーカ

《続》

〔右〕冬季作戦中のJu87B-2。フラップを下げ、爆弾をかかえて離材もしくは上昇して行く。風防前面に光って見えるのは、光学照準器のレフレクター。

解説：川上しげる





〔左〕水上ランチから上空を見上げる搭乗員。被弾して不時着水したのを救助されたのだろうか。上空にはJu87Bが旋回している

⇐ A Ju87's crewman, rescued by a launch, lo upward. Flying over is Ju87B.

〔右〕第77急降下爆撃航空団（St. G 77）のJu87B-1。プロペラ形状から見るとB-1だが、この機体には パイロット用防弾鋼板が装着されている。胴体下の懸架に積む500kg爆弾を運ぶところ。爆弾のフィンについている筒状のものは投下時に鳴る笛と思われる。

JUNKERS JU87 DIVE BOMBER



Ju87B-2 during a winter operation. The leaden sky of Europe added to the gravity of this imposing bomber. Lighting on the windsied is the reflector.

Ju87B-1 of St. G77. Note the armor for the pilot, seen in the cockpit. Tubes upon the 500kg bomb fins must be whistles.



Ju87B-2, probably belonging to St.G76, the historically famous "Groupe" in the Poland and French operatios. Note the sliding canopy for the rear-seat gunner.



〔上〕出撃準備もととのったJu87B-2。後部射手席のキャノピはうしろにずれて開く。部隊コードから見て、第76急降下爆撃航空団（St. G76）の所属機と思われる。同部隊はポーランド電撃戦、フランス進攻と歴戦の部隊である。

Ju87B-2 of St. G5 in preparation for a mission, East Front. A group of Stuke bombers coming back on one hand.







Ju87B-2, "Moshaish" on the nose, belonging to 3/St. G5, during the well-known 1943-winter operation in Leningrad.

〔左下〕 Ju87B-2。東部戦線の雪の中で出撃準備をする第5急降下爆撃航空団（St.G 5）の1機。上空には帰投中のシュツーカの編隊。貴重な写真である。

〔上〕 "Moshaish" という文字のマークを機首に描いた第5急降下爆撃航空団第3中隊（3／St.G 5）のJu87B-2。同部隊は1943年冬のレニングラード攻防戦に参加し、ソ連軍とロシアの "冬将軍" といわれる厳寒を相手に戦った。

〔下〕 左下の写真と同じ機体。コード（J9+LL）は第5急降下爆撃航空団第3中隊を示す。部隊コードまわりのペンキの塗り方や主翼上面のはげぐあいから見ても、冬季作戦では通常の塗装の上から、白い水性塗料で迷彩を施したことがわかる。



The same aircraft. "J9 + [illegible] paint, off in places, shows [illegible] was in the East Front.



Ju87B-1s and their fuel. Carrying fuel only in wing, the B series cruising range was 550-650km.

The same fuel site. An aircraft behind the Ju87B must be Heinkel He 111.



〔上〕Ju87B-1の2機。燃料ドラムかんがゴロゴロしている。Ju87Bシリーズでは、燃料タンクは主翼の内外翼のみにあったから、550kmから650km程度の航続力であった。

〔左〕上と同じシーンのJu87B-1。後方に見えるのはハインケルHe111爆撃機と思われる。

AAF Bomber & Fighter Formations

（79ページ本文記事参照）



日本軍戦闘機の戦術

米陸軍空軍が大戦中にまとめた「日本軍戦闘機の戦術」（本文記事参照）の参考として、B-24およびP-38の編隊飛行中の写真をいくつか紹介することにしよう。写真上は1944年12月18日、中国の漢口の日本軍施設を爆撃する第14空軍第308爆撃大隊のB-24J。写真下は欧州戦線のB-24で、1944年9月18日、オランダの友軍陣地に低空で補給物資を投下中。やや乱れてはいるが、3機、3機のボックス編隊。Aフライト3機とCフライト3機をBフライトから撮影したもの。



↑ General view of Hankow airdromes during attack by 14th AF B-24J bomber on 18 Dec. 1944. (USAF Photo)

Supply laden chutes released by B-24s drop in [illegible] area Holland 18 Sept. 1944. (USAF Photo)



In on Iwo Jima strike, 55-gallon drum incendiary bombs are directed by 7th AAF B-24 on 1 Dec. 1945. (USAF Photo)

写真上は1945年2月1日、硫黄島の上陸地点に55ガロンの焼夷弾を投下するB-24J。サイパン島から発進した第7空軍隷下のリベレータ。基準どおりの隊形を保った編隊爆撃である。高度は19,000〜20,700ft（5,790〜6,309m）。

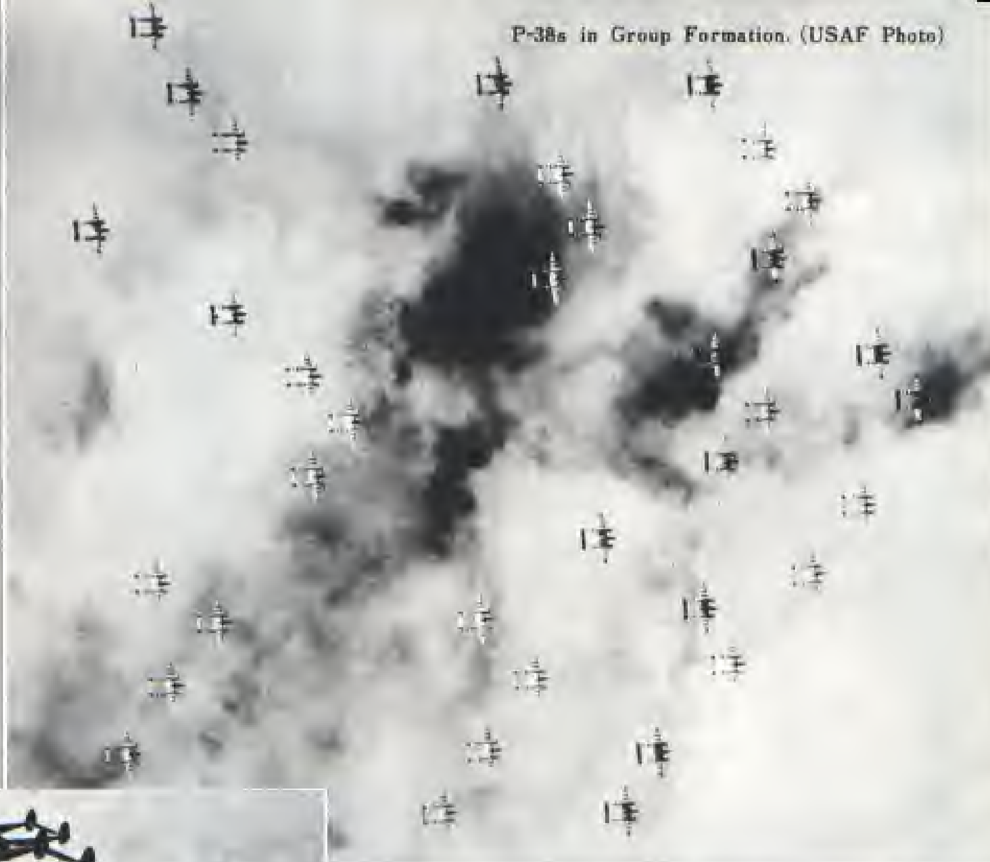


Pacific. (USAF Photo)

写真左下とこのページはP-38ライトニングの編隊を示すもの。いずれも4機のフライトがガッチリと組んだ美事な編隊である。

左下は太平洋戦線でスコードロン編隊を組んだP-38の1フライト。最初のエレメントの2番機は1番機の右側につき、2つ目のエレメントが交差するように並んでいる。右の写真は2個以上のスコードロンが集ったグループ編隊の隊形がよくわかる写真である。間かくをつめた密接した隊形で進撃中。

このページ中の写真は1フライトの4機が斜め1列に並ぶ駆逐編隊の1例、写真下は帰投した1フライトが着陸進入のために編隊を解くところ。


P-38s in Group Formation. (USAF Photo)


A flight of P-38s' in Sweep Formation. (USAF Ph...


A flight of four 9th AF P-38 returing from a mission, make the approach to their base. (USAF Photo)

装備機でたどる 米第5空軍戦史 ⑭

WINGS OF 5TH AIR FORCE

このページと次ページの6枚は、あざやかな空色のマーキングでモデラーにおなじみの第475戦闘大隊（475th FG）第433戦闘中隊（433rd FS）の194番機、キャロルR.アンダーソン中尉のP-38J "バージニア・マリー"号。機首の右側には"マーガレット"と書いてあるのに注意。左下の写真は愛機の前に立つ同中尉である。本欄のこれまでの写真で、C.R. Andersonの署名のあるのは、同中尉のアルバムから借用したものである。太平洋戦線の戦闘機部隊は、第5空軍さん下の第8、第49、第475戦闘大隊のほかに、第347戦闘大隊を含めて4個大隊がP-38ライトニングを装備して戦っている。9～10時間も飛べたP-38のアシの長さとすぐれた高々度性能は、島伝いの太平洋戦線で爆撃機の護衛任務には最適の戦闘機であった。リチャードI.ボング、トーマスB.マクガイアJrなど、第5空軍のトップ・エースたちの戦果は、本機によるところが大きかった。写真は1944年9月、ビアク島にて。



Lt. C. R. Anderson poses by his P-38J, No. 194.



P-38J "VIRGINIA MARIE," flown by Lt. C. Robert Anderson, 433rd FS, 475th FG, Biak Is, Sept. 1944. (Photos: C. R. Anderson)











↑ Decoration "MARGARET" on starboard side of cockpit nacelle.







このページの４枚は、いずれも第475戦闘大隊（475th FG）第432戦闘中隊（432nd FS）所属のＰ-38Ｆの機首デコレーション。1943年、ニューギニアのドボズラ基地で撮影。第431、第432、第433戦闘中隊から成る第475戦闘大隊は、オリーブドラブのＰ-38ＦとＨ型を装備して1943年８月から第５空軍のさん下で戦闘に参加した。装備各機は、機首と垂直尾翼に白で機番号を書いたほか、同年末からはスコードロン・カラーを採用、垂直尾翼先端とスピナの後半部分を、第431は赤、第432は黄、第433は白またはブルーで塗っていた。機番号とスコードロン・カラーのほかに、機首には写真のような派手なマーキングをした機体が多かった。第432戦闘中隊に装備されたＰ-38ＦとＨ型の機番号は140－169であった。第475戦闘大隊の各中隊は、1944年３月から６月にかけて、新型のＰ-38Ｊに機種改変している。

Nose decorations on P-38 Lightnings of 432nd FS, 475 th FG. Dobodura, New Guinea, 1943. (Photos: Amos Warner)





ジェット軍用機の先輩たち



ENGLISH ELECTRIC CANBERRA

イギリス編 ⑲

イングリッシュ・エレクトリック キャンベラ

〔上〕1 2インチ・ロケット弾を発射するキャンベラB.6。B.6はB.2のアボン101エンジン（6,500-lb：2,948kg）をアボン109(7,400-lb：3,356kg)に換装して、燃料の搭載量をふやし、航続距離をのばしたもので、129機が生産された。爆弾の搭載量はB.2と同じ(6,000-lb:2,722kg)。〔下〕B.6を改造した高々度写真偵察型であるキャンベラP.R.7。カメラはP.R.3と同じく前部胴体に7個搭載。74機が生産され、1953年末から部隊に引渡された。

⬆ Canberra B.6 with Avon 109 engines.



Canberra P.R.7 high altitude photographic recon. aircraft.

Canberra U.10 unmanned target aircraft.



〔上〕B.2を改造した無人標的機のキャンベラU.10。誘導兵器の訓練用にショート・ブラザーズ&ハーランド社で改造したもので、地上からの遠隔操縦で約3時間飛行できた。ショート社ではB.2のWJ 65機を使って1957年5月から改造にかかり、写真のWJ987機で地上からの誘導による初めての飛行を行なった。このときはチェック・パイロットが同乗したが、写真はそのときのものである。無人のリモート・コントロールの場合、運航重量は10,179kg、最大離陸重量15,422kg、最大速度は高度7,620mでマッハ0.78、海面上昇率は1,980m/分、実用上昇限度16,750m、離陸距離は777m（15m越え）という性能であった。

〔下〕B.6の武装強化型であるキャンベラB.15。通常の爆弾のほかに主翼下に1,000-lb（454kg）爆弾2発または2インチ（5cm）ロケット弾37発のマイクロセル・パック2個を装備できるようにしたもので、UHF、HF通信セットも新たに積まれた。そのほか後部胴体のF-24カメラに加えて、機首にF-95カメラ、右翼前縁にG-45カメラを追加装備している。極東および中近東方面の英空軍部隊に配備された。

〔右上〕B.2を改造した全天候戦闘機パイロットの訓練機であるキャンベラT.11。機首に迎撃レーダーを積み、乗員は訓練生2人を含めて4名。ボールトン・ポール社で8機が改造され、英空軍に4機、スウェーデン空軍に2機が装備された。

〔右中・右下〕B.2を改造した標的曳行機のキャンベラTT.18。両翼下のパイロンにラシュトン自動ウインチ・パックをつるし、ケーブルでFR/ヘイス迎撃用標的を曳行した。

Canberra B.15. Modified B.6 with under-wing attachment for two 1,000-lb bombs or two 37×2-in rocket packs.



Canberra T.11. Modification of Canberra B.2 for training pilots and navigators of all-weather fighters.



Canberra TT.18 target towing aircraft.



Canberra TT.18 carrying a Rushton automatic winch pack on a pylon under each wing.

